

第6回 建コンフォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、平成21年よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞」を毎年開催しています。「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに、道路や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景を撮影いただきました。

平成26年度も、当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の公共図書館や高校写真部へのポスター配布などで作品を募りました。

その結果、全国の幅広い年齢層の方々から341点の応募をいただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）および当協会広報事業専門委員会による審査会にて審査しました。

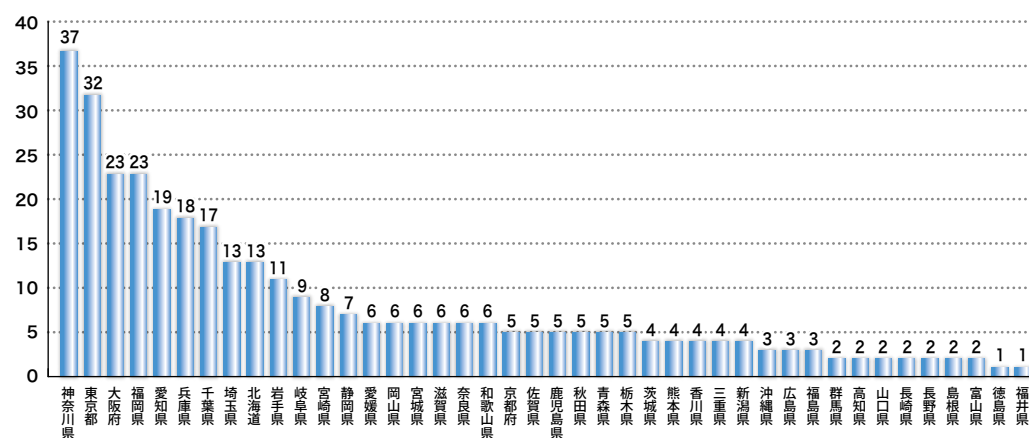
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点を決定しました。入賞作品と講評は次ページ以降に掲載するとおりです。

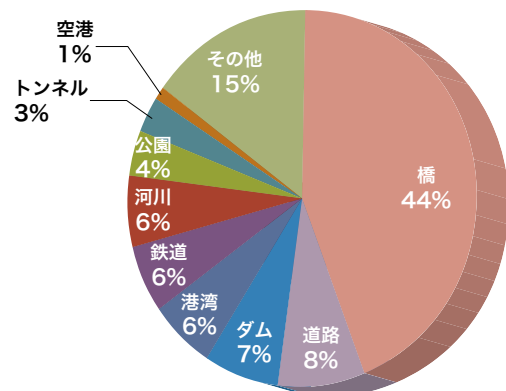
審査委員

審査委員長 伊藤 清忠（東京学芸大学名誉教授）
審査委員 宇於崎 勝也（日本大学准教授）
知野 泰明（日本大学准教授）
初芝 成應（日本写真作家協会会員）
長谷川 伸一（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

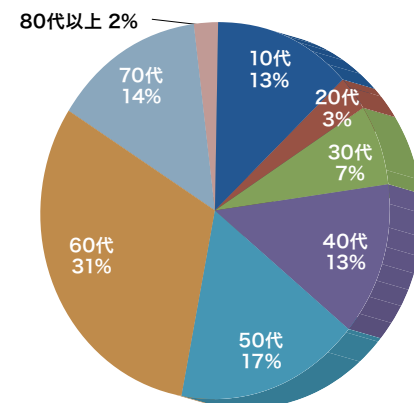
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞



「高波にも負けず」

愛知県 河内 聡

（撮影地：愛知県田原市）

【撮影者のコメント】

遠州灘に面した赤羽港。台風の高波を一生懸命防いでいる堤防。飛沫と波模様に飾られた堤防に、私たちの生活を守る「凛々しい姿」を感じました。

講評

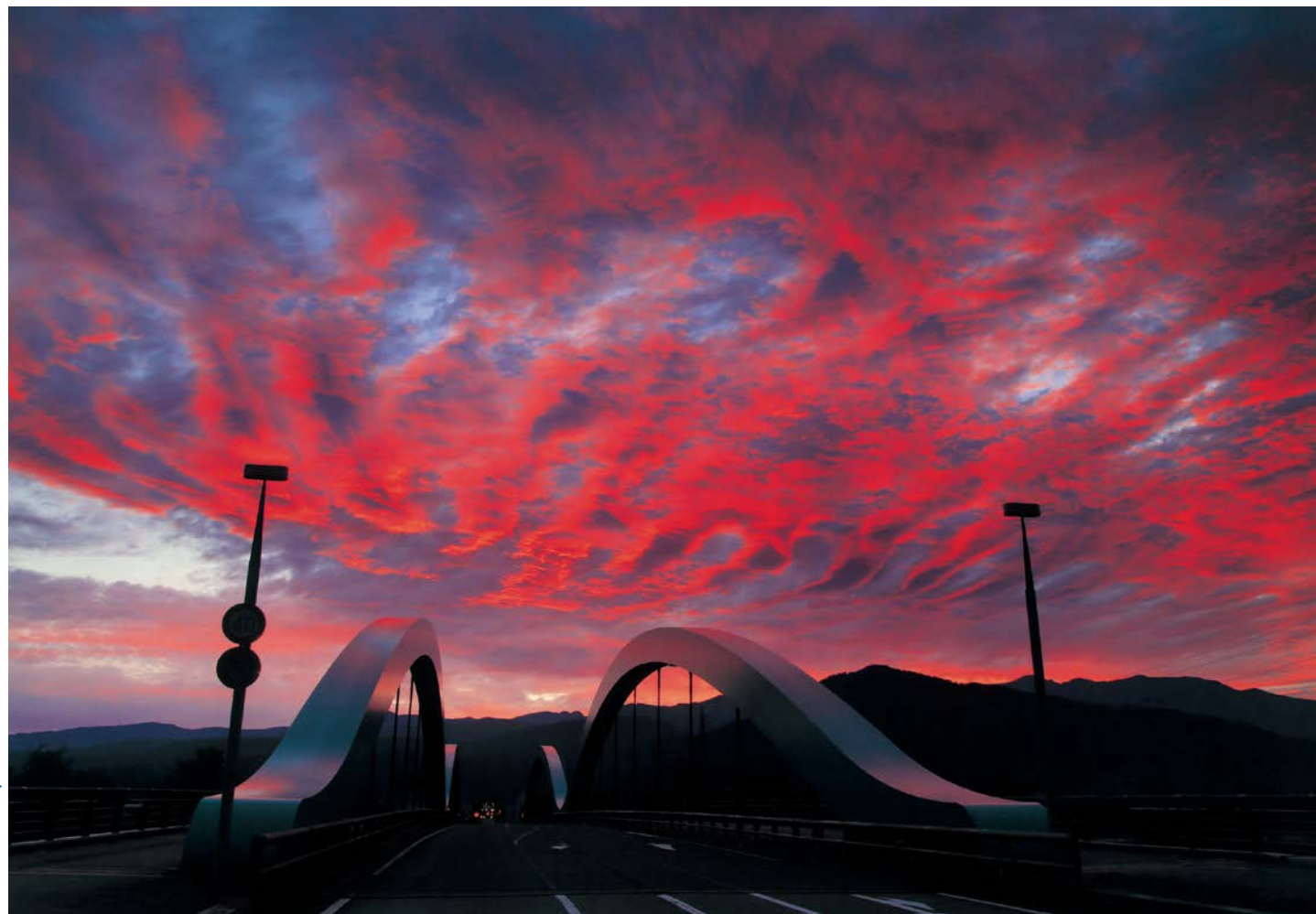
台風や冬の季節風が強い遠州灘に面した海の難所の避難港である赤羽港の堤防にかもし出された凛々しく、非常に多様で美しい波や水しぶきの形・質感・色彩などを見事に捉らえている秀作です。（伊藤審査委員長）

台風による高波が堤防によって崩れた一瞬をとらえた迫力の一枚。日ごろ何気なく眺め、散歩や釣りを楽しむ場となっている堤防が、本来の目的を果たしている姿に感動です。（宇於崎審査委員）

怒涛の波が制圧されて流れ落ちる。鱗の様なその文様もまた美しい。立ち向う主役が姿を見せないところに土木の心を感じます。（知野審査委員）

台風直前の暗く浮き上がった沖合の海面、荒波に耐え乱れた消波ブロックと、一步も引かない頑強な堤防を、激しい高波が叩きつけ、生き物の如く海水は容赦なく堤防に襲い掛かり、荒波に耐える臨場感溢れた、見る者を惹きつける作品です。（初芝審査委員）

台風の猛々しさを防波堤が、がっしりと受け止め、砕かれた波は美しい気泡となって防波堤のカーテンとなる。自然の激しさを防波堤が凛々しく鎮める、生活を守る動と静の対照的な景観のコントラストをモノクロで捉えた見事な作品です。（長谷川審査委員）



「モーニングレッド」

福井県 久保 幸子

(撮影地：福井県勝山市)

【撮影者のコメント】

仕事から帰ってのウォーキングに通る勝山橋。春には弁天の桜をながめ残雪の残る越前兜（大日山）や百名山の荒島岳を見て、丸頭竜川の流れを感じながらこの橋の流れる様なウェーブが好きです。この日は、久々に朝焼けが見れました。右側を通るカーブ、左側から見るカーブ、それぞれ違ったイメージの風景に会える楽しい勝山橋です。

講 評

不自然に思われる朝焼けの空のレッド、ブルー、グレーの色が非常に印象的です。その印象的な空の色を橋が効果的に受け止めています。暗い山並と朝焼けの対比も効果的です。 (伊藤審査委員長)

土木学会のデザイン賞を受賞した勝山橋の美しいアーチのフォルムとともに、朝焼けが「さば雲」に反射し自然が作り出した美しさが重なって、全体の流れるような構図が素晴らしいです。 (宇崎審査委員)

橋と雲の曲線がコラボレート。さらにワインレッドが一体感を演出し、希少な一瞬となりました。 (知野審査委員)

自然の織りなす雲模様はあたかも描いた油絵の如く流動感を漂わせており、遥か彼方の僅かな朝日が暗い橋のウェーブを、赤く染まった雲の反射で映し出され、そのアングルはほぼ橋の中央から撮影されている、優美な瞬間を捉えています。 (初芝審査委員)

鮮やかな朝焼けと青空が空一面を覆い尽くす模様が神秘、幻想的です。また朝焼け雲がアーチ橋面を染めるウェーブの調和の一瞬を見事に捉えており、このような奇跡的な光景が鮮やかさと重なって目につく作品です。 (長谷川審査委員)



「共存」

神奈川県 岡本 芳隆

(撮影地：静岡県静岡市)

高台から新東名高速道路の新清水ジャンクションを望める場所から撮影しました。急な斜面には茶畑が広がります。高速道路が整備され便利になるのは良いことですが、このような日本の原風景も残していきたいものです。

講 評

鮮明で伝統的な原風景である茶畑の緑と人のいとなみ、現代の新東名高速道路の対比が印象的です。 (伊藤審査委員長)

手前の茶畑は静岡の名産を生み出す場として日本の残したい風景のひとつです。奥には新東名高速道路が人工的なカーブを描いています。伝統と利便性の双方が「共存」した色鮮やかな作品です。 (宇崎審査委員)

白と緑。人が精魂込めた2つの主役が織り成す造形。お互い空を背景に、風景の主役が脇役を演じます。 (知野審査委員)

高台から見下ろす緑の茶畑が全体の構図を引き締めており、バランスの良い新東名のジャンクションと遠くに観る山の地形は遠近感を見事に捉え、眼下の作業袋と家族の姿が、土木の未来像を彷彿させる見事な構図です。 (初芝審査委員)

過去からの生活の一部である茶畑の鮮やかな緑と、最近できた高速道路と山並み、青空と雲の競演、共存が調和した物語となっています。無造作に置かれた茶摘み袋が、茶畑の存在感とゆったりとした生活を描きだしています。 (長谷川審査委員)

特別賞



「黒部の轟音」

神奈川県 木村 篤史

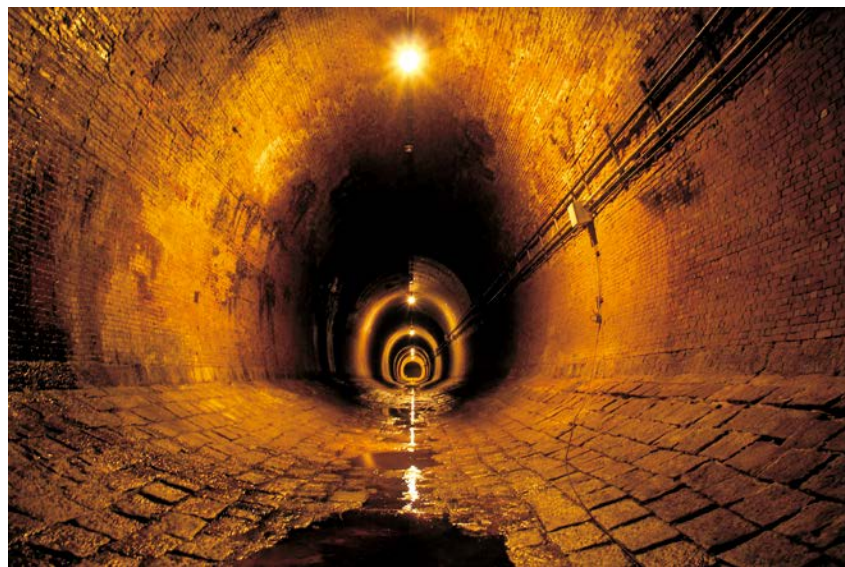
(撮影地：富山県中新川郡)

【撮影者のコメント】

2013年の夏。欲しかったデジタル一眼レフと広角レンズを購入し、雄大な風景を撮りたいと思い黒部ダムに行きました。母も一緒に行き、いい思い出になりました。

講 評

湛えられた雄大なエメラルドグリーンのダム湖の水が放出を待つ静観と、一気に放出される水の奔放さが同一のものとして変化した対比が美しいです。また雄大なダムを挟んで静と動の境に点在する人の光景が興味深いです。



「明治の遺産」

兵庫県 西山 英一

(撮影地：兵庫県神戸市)

【撮影者のコメント】

私が「湊川隧道（会下山トンネル）」の存在を知ったのは、10年位前のことでした。神戸市街地の地下に「明治時代に建設されたレンガ造りのトンネルがあったなんて!」。建設当時の1枚の古い写真を見て、ぜひ自分の目で見てみたい、そして写真を撮ってみたいとチャンスを待って臨んだ「私のお気に入りの1枚」です。

講 評

わが国初の河川トンネルとして1901年に竣工した神戸市兵庫区の湊川隧道は、2000年にその役割を終えて土木遺産として公開されています。わずかな明かりに照らされた姿は、緻密な施工がうかがえ、傷みも感じさせません。

特別賞



「茜色に染まるとき。。」

東京都 垂 秀夫

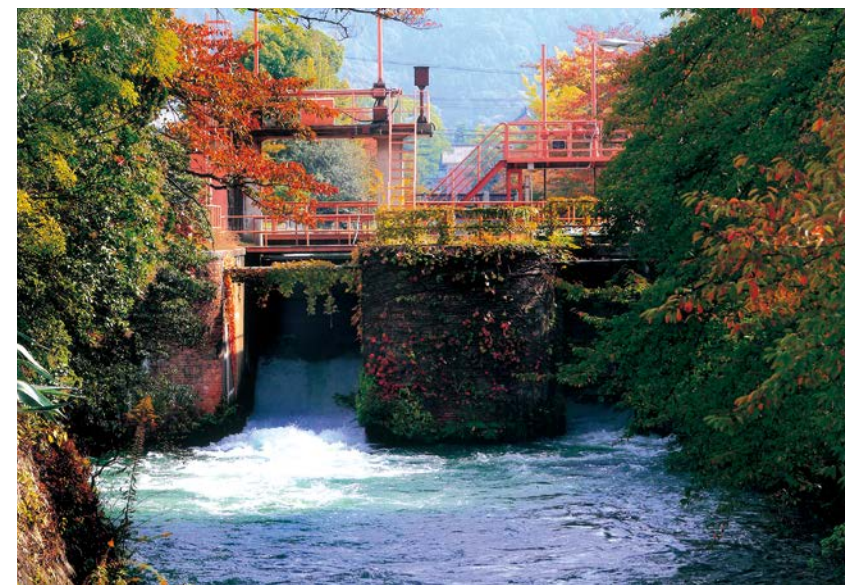
(撮影地：千葉県旭市)

【撮影者のコメント】

千葉県飯岡刑部岬で撮影。夕日が静かに暮れて、茜色の素晴らしい情景をもたらしてくれました。堤防の内と外で波の有無が顕著で、動と静の対比がとても印象的でした。この堤防が、飯倉漁港を守ってくれていることがよく分かりました。帰港する船を点景に撮影。

講 評

堤防内の非常に穏やかな水面と、堤防外の折り重なり変化する波の静と動の対比が、夕暮れの水平線上の夕陽と空の色で見事に表現されています。堤防内の船も効果的です。



「町中の小さな発電所」

京都府 井上 弘一

(撮影地：京都府京都市)

【撮影者のコメント】

今からちょうど100年前の1914年（大正3年）にこの夷川発電所が出来、電気を供給し始めました。完成時には京都市民は大変な喜びようで、お祭り騒ぎだったらしいです。時が経ち、今ではその存在をどれだけの人たちが知っているでしょうか。かく言う私も小さなダムが有るな～位にしか思っていなくて、まさか発電所が京都市内のこんな中心部に近い場所で稼働してるだなんて驚きです。赤レンガ造りの我々の誇るべき文化遺産です。

講 評

京都と言えばだれもが興味を引く日本の誇る文化遺産の宝庫です。放水する清らかな水の勢い、歴史を感じさせる赤レンガの淡色と小さな発電所を取り巻く美しい樹葉の風情が美しい。京都市内に100年前に赤レンガで創られた発電所があるのを知る人は少ないでしょう。実際この目で見たい作品です。

特別賞

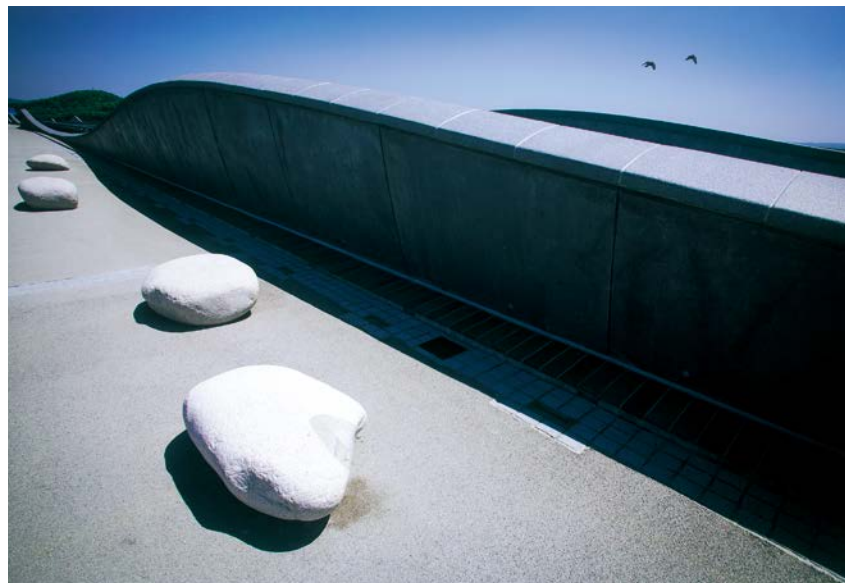


「雪降る日」
和歌山県 中村 光雄
(撮影地：奈良県天川村)

【撮影者のコメント】
地権者の協力、理解により建設された多目的ダム。昨今、原発事故により見直される水力発電所。安全で公害の無い設備のため、最も重要視されるべきだ。

講評

奈良県天川村の九尾ダムに雪が降り積もる様子をとらえています。雪がシンシンと降るとはこのような姿を指すのでしょうか。雪に埋もれた純白と、風雪を重ねたコンクリート構造物のコントラストが美しいです。



「WAVE」
岐阜県 小林 咲季
(撮影地：岐阜県各務原市)

【撮影者のコメント】

この写真は、岐阜県各務原市にある各務原大橋で撮影したものです。橋ができる前からどのような橋ができるのか興味深く思っていました。私は、この橋の車道と歩道の間の堀が波のようになめらかで、美しく心魅かれるものがありました。所々に置いてある休憩用の丸い石をポイントに写真が撮れないかと構図を考え撮影したものの1枚です。広角レンズを使い近くの石を大きくデフォルメし遠近感を強調し、シンメトリーにならないよう左にポイントを置き撮影しました。

講評

まるで砂漠か火星の世界。絶妙な形状と影が生み出す不思議な空間。橋の上とは驚きです。高校生の感性が光ります。

特別賞



「夕景に浮かぶ」
東京都 古畑 耕
(撮影地：東京都江東区)

【撮影者のコメント】

何時も遠方から眺めている「ゲートブリッジ」を建設以来初めて間近で見た時は、大きさ、高さで驚きを感じて城南島～若洲公園に行き、夕景の頃、「蔓の架け橋」に富士を遠方に撮った1枚です。大田区-江東区が近くなり便利になりました。

講評

画期的な造形のゲートブリッジと、橋上のトラック・灯台・風車・富士山等が夕暮れの空をバックに明暗を活用して、感動を込めて表現されています。



「暮れなづむ頃」
島根県 佐伯 範夫
(撮影地：鳥取県米子市)

【撮影者のコメント】

昭和4年に建設され道路のトラス橋としては県内最大でかつ最古のもの。昭和43年に新日野橋が出来てからは自転車、歩行者専用の橋として使われています。黄昏時に白い橋が赤く染まろうとしてた時に撮ったものです。

講評

近年、橋の設計はシンプルでウエーブを描き、ライトで華やかな雰囲気を漂わせてくれるが、この古い橋は何故か昔懐かしい造りでがっちり組まれたトラスが骨太で安全なイメージが伝わり、実際の橋は白で塗装されている所に、夕日をあびて橙色に映し出されている、風情を捉えた作品です。



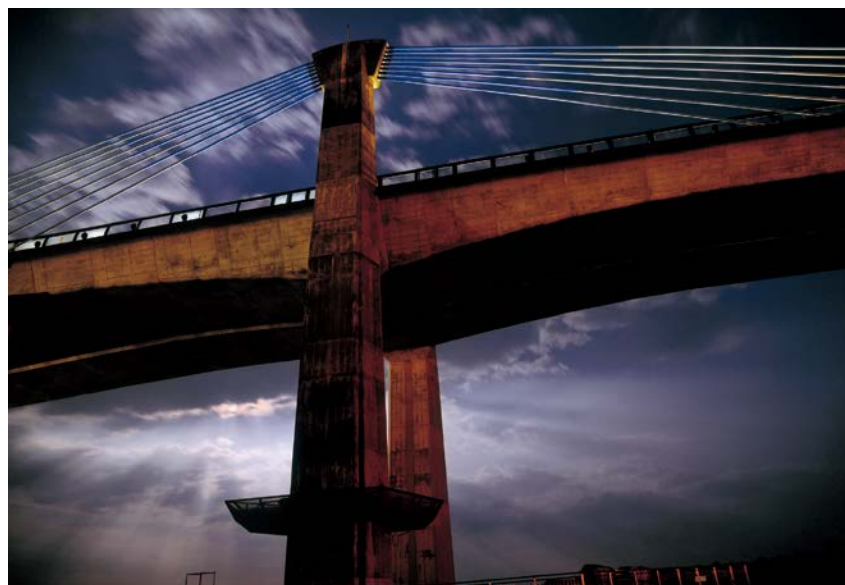
「“幻” 橋梁へ」
千葉県 糸賀 一典
(撮影地：北海道上士幌町)

【撮影者のコメント】

季節により浮き沈みするタウシュベツ川橋梁は、東大雪山系の美しい山々の景色とマッチした、知る人ぞ知る橋梁です。特に2・3月は、結氷した湖上をスノーシュー等を履いて最接近できるため、その橋梁の雄大さを実感する事が出来ます。

講 評

鋭角的な連峰と一面の白銀世界の中で、古代ローマを髣髴させる重厚なアーチ橋とのコントラストが美しいです。孤立した静寂な白銀世界の中のアーチ橋の存在感が大きい反面、湖面ではスキーをする人がいる光景も不思議です。



「月影のベイブリッジ」
神奈川県 下川 勝利
(撮影地：神奈川県小田原市)

【撮影者のコメント】

スーパームーンの夜に月と橋をコラボするつもりだったが、雲に月がかけて幻想的な光芒が出てきれいだった。

講 評

雲間からの月光を光背として聳え立ち、ベイブリッジが神々しい姿と化しました。

【入賞作品マップ】

